

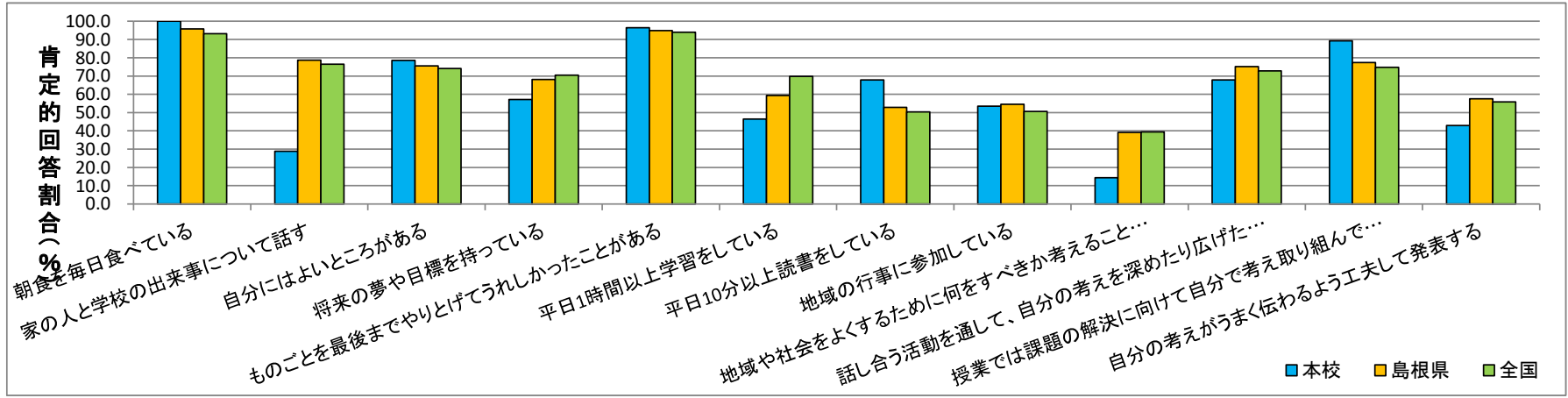
(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策
国語	○選択肢が与えられた設問から選び出すことができる。 ○短歌の主題や状況を読み取ることができる。 ●論理的に考えて文章化する。 ●正しい手紙の書き方をする。	・200字程度の短作文を書く活動を取り入れる。 ・課題に対しての自分の考えについて、言葉を選ばせながら書く活動を取り入れる。 ・正しい手紙の書き方の指導を徹底する。
数学	○資料の活用の領域の正答率が県平均を上回っている。 ○長文の問題文を読み取ることができる。 ●数と式の領域の正答率が県平均を下回っている。 ●図形の領域の基本的な知識に課題がある。	・新しい単元の学習の際に、既習事項の内容を確認する時間を取り入れる。 ・授業の最初に小テストを行い、数と式の領域の問題に取り組む機会を増やす。
英語	○「聞くこと」は全体的に県平均と大きな差はない。 ○比較的語彙数の少ない英文を読む問題は、県平均を上回るものもある。 ●聞いたり、読んだりしてから自分の考えを書く統合的な問題に課題がある。 ●書く問題は無回答が多い。	・基礎基本が定着する活動を行いつつ、書くことへの抵抗感をなくすように書く活動を増やす。 ・自分の考えを表現する活動を積極的に取り入れる。

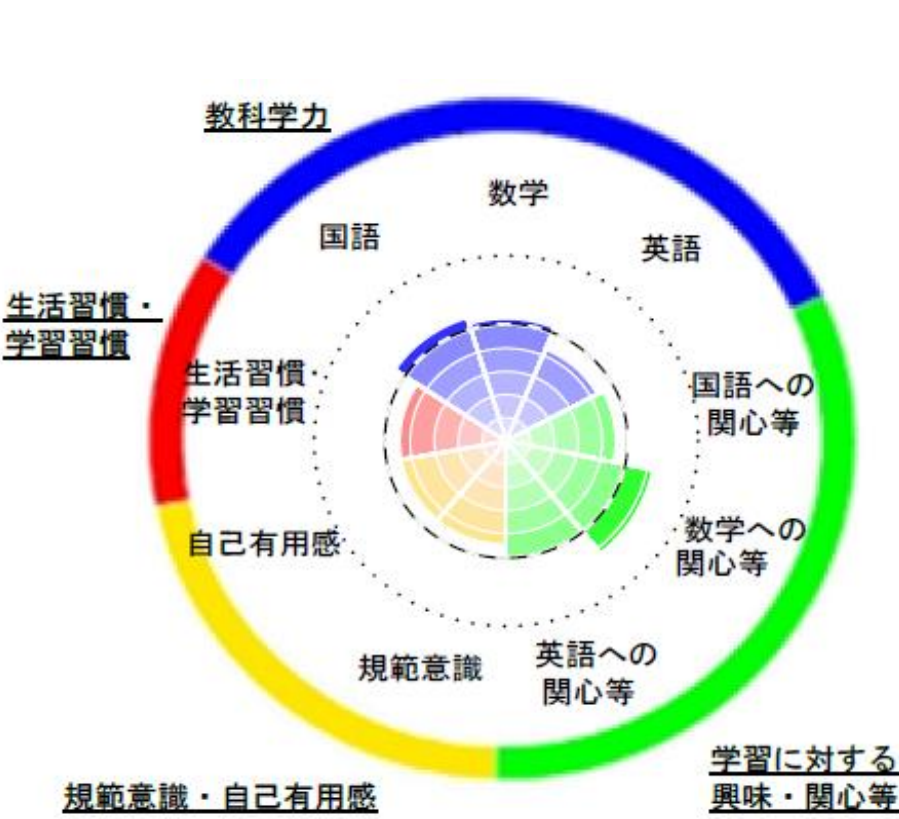
(2)生活意識調査から見られた傾向

成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策
○「朝食を毎日食べている」ことに肯定的回答をした生徒が100%で県平均を上回っている。 ○「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかった」ことに肯定的回答をした生徒が96.4% 「授業での話し合い活動で自分の考えを深めたり、広げたりする」ことに肯定的回答をした生徒が89.3%、自己肯定感の高まりがみられる。 ●「家の人と学校での出来事について話をしている」ことに肯定的回答をした生徒が28.8%で県平均を下回っている。 ●「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えること」について肯定的回答をした生徒が14.3%で県平均を下回っている。	・今後も各教科、特別活動等を通じて自己肯定感を高める機会を継続して設定し、支援を行っていく。 ・家族との関わりが深まるよう、家庭へのコミュニケーションワークなど啓発活動を行う。自分が地域にどのように貢献できるか考えさせるとともに、あいさつ等具体例を提示し、支援を行っていく。

(3)意識調査(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています)



(4)学力調査及び生活意識調査から見られた傾向(破線は全国平均)



(5)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

- ・学習コンクール(漢字・計算・英単語)を毎学期に実施し、基礎学力の定着を図る。
- ・リポートタイムで家庭学習の習慣化と一日の学習内容の定着を図る。
- ・定期試験前等、放課後学習会を設け、少人数できめ細かい指導を行う。
- ・各教科等で自分の考えや意見を説明したり発表したりする場面を設定し、自己肯定感を高める機会を多く作る。

【参考】

○平均正答率		(%)			
	本 校	松江市	島根県	全国	
国語	77	73	73	72.8	
数学	62	60	57	59.8	
英語	49	54	53	56.0	

受検者数 28 人
※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示しています。